



2018年チリ全国パラリンピック水泳大会チーム優勝（7月冬季大会）

チリ

障害者スポーツの普及と東京パラリンピック出場を目指して

2017年～2020年6月



チリで唯一の国立リハビリテーションセンターであるペドロ・アギレ・セルダ国立リハビリテーションセンターは、身体障害者の社会参加促進やコミュニティ内での障害者自助グループ支援を目的とした障害者スポーツに取り組んでいます。

本案件は障害者のスポーツを通じた社会参加の促進と障害のある水泳選手の2020年の東京パラリンピック出場を目指して、JICA海外協力隊の派遣により、障害者スポーツの指導と普及の支援をしています。

～活動や目指す成果～

「障害者水泳」選手の育成

2014年にペドロ・アギレ・セルダ国立リハビリテーションセンターからの「新しい障害者スポーツ分野の開発・発展」の要請を受け、同センターに派遣されているシニア海外協力隊員による身体障害者に対する水泳の指導が始まりました。指導が進むにつれてチリ国内大会で入賞する選手や国際大会出場レベルの選手が育っています。2018年には隊員が指導するチームはチリ・パラリンピック水泳全国大会で2連覇し、チリを代表するチームとなりました。隊員の教え子の一人Christopher Durán選手（障害者クラスS3）は、2019年5月に行われた「パラリンピック水泳ワールドシリーズ・サンパウロ大会」において3種目で3つの銅メダルを獲得しました。2019年8月にペルー・リマで行われる「パラリンピック・パンアメリカン大会（南北アメリカ大陸大会）」にも出場しました。現在は2020年の東京パラリンピック出場を目指しています。

「障害者水泳」指導者の育成

チリではあまり馴染みのない「障害者水泳」の普及のため、2018年に「障害者水泳導入、パラリンピック競技・規則について」指導者対象の講習会（講義・実技）を行いました。

多種多様な障害者スポーツの普及支援

同リハビリテーションセンターの障害者スポーツクラブにおいて、週に2回ずつ「ボッチャ」「卓球」等の指導をしています。対象者はセンターの入院患者をはじめ、通院患者、そして地域の障害者にも開かれています。また、クラブ活動に年齢制限はなく、老若男女の参加が可能となっています。